

事業所名

あゆむZIBUN LABO (放課後等デイサービス)

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和7年

2月

6日

法人(事業所)理念		ノーマライゼーション(共生社会)の理念のもと、「ここで生まれ、ここで育ち、ここで暮らす」そんなあたりまえのことがあたりまえにできる地域社会に・・・。「特別」を「特性」や「個性」としてとらえ、互いに支え合う地域社会に・・・。「特別」が「あたりまえ」になる地域社会に・・・。 私達は、そんな地域社会づくりに貢献していきます。						
支援方針		地域の障がいのある未就学児の療育支援及び児童生徒の放課後の学童支援。また、その幼児・児童・生徒の保護者に対する相談支援、幼児施設や学校等への訪問支援等、児童生徒の社会参加のために必要だと思われることを支援する。						
営業時間		9時	30分	18時	15分	送迎実施の有無	あり なし	
支援内容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態等の把握を行う。 本人にとって心地よい居場所となり、心身の力が蓄積できよう環境を整える。 本人がやりたい活動を職員も一緒に行い、ストレスを分散できる環境を設定する。 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 運動に繋がる活動を積極的に取り入れる。 外活動や周辺への散歩等に対し、安全を確保し自主性を大事にしながら活動する。危険予知が行えるよう見守りや声掛けに重点を置き対応する。 身体を動かすため楽しく伸び伸び活動できるように環境(場所、道具等)を整える。 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 活動前に自分で一日のスケジュールを決め行動する。 PC使用の活動時は、時計を用いて時間を確認しながら行う。 自ら楽しんで活動できる環境等を見つける。 取り組む活動を自分で決め、「必要な物品があれば自分から必要であることを伝え用意してもらい受け取る」という、一連の流れを経験する。 取り組みたい活動が見つからない場合、本人のこれまでの活動状況を振り返り支援側からのアプローチを行う。 						
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う中で「話すこと」や「聞くこと」を大切にする。思いや考えを言葉に乗せることに重点を置き根気よく待つ。 トラブルなどの際は、本人や相手の思いや考えを代弁することで、相手の気持ちを理解したり「どう声をかけてよいか。」次につながる声掛けのをする。 絵や、文字、数字を書いたりする時間を決め、本人の気持ちやペースに合わせ学習に取り組む環境を整える。 						
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動で生まれるいざこざやもめ事に対し、必要以上の介入をせずに見守る。 居心地の良い人間関係を構築するための方法論を、利用者個々人のリズムに合わせて対応する。 自分の思いが通らず気分が不安定さが見られた時は、本人の気持ちによりそった声掛けや環境を変えるなどの対応を行う。 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 困ったことや不安等をいつでも話せる保護者との関係性作りや体制を整える。 保護者等から相談があった際、傾聴する姿勢を心がけ適切な対応とアドバイスができるように職員も学びを深める。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> 現在の本人の課題や困り感を見極め、将来を見据えたこれからの生活において適応できるようなアプローチを個々に合わせた計画を作成し実施する。 途中からでも学校に行きやすい時間割や環境の設定を学校と検討する。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 学校、特別支援学校、関係機関、それ以外の機関とも必要性により連携を行う。 置賜地域児童発達支援事業所等連絡会議に参加する。 スクールカウンセラーと連携する。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 法人内での法定研修の実施。 スタッフ間でのケース検討会の実施。 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇時には計画的に行事を提案し実施する。 不登校児に対して、長期休暇に限らず午前中など季節にあった活動を提案し、実施する。 						